

キャリア教育に関する応用演習 I・II の取り組み
—2024 年度の実施報告—

佐藤 麻衣^{*1} 森 靖之^{*2}

Report on the Implementation of Applied practices I and II as Career
Education

SATO Mai MORI Yasuyuki

要約

ビジネスデザイン学科では、主要四科目を基軸に職業教育を展開することにより、その教育事象が「キャリア教育」を形成するものであるとして、当教育の特徴を明確化することが本稿の目的である。したがって本稿では、主要四科目の中でも、2年生の必修科目である中核の応用演習 I・II の二科目に着目し、各科目の性質およびその科目間の連関性を詳述し、本学科におけるキャリア教育体制について論じるものである。

キーワード：キャリア教育、初年次教育

Abstract

This paper examines the career education system in the Department of Business Design. The main purpose of this study is to clarify the framework of career education. Occupational education is formed and assisted by career education. In order to carry this out, it is important for career education to have set as its basis four principal subjects. This paper focuses on two of these for main subjects, Applied practices I and II, which are compulsory subjects for second-year students, and details the nature of each subject and the connections between them, and also discusses the career education system in this department.

Keywords : career education, first-year experience

受理年月日 2025 年 11 月 27 日 *¹高松短期大学ビジネスデザイン学科講師
*²高松短期大学ビジネスデザイン学科教授

はじめに

二年制課程の短期大学では、入学直後の1年生前期から、就職活動を意識した授業展開が必要となる。言うまでもなく、短期大学は、四年制大学のような時間的余裕はなく、2年生になって間もなく進路決定の場面に直面する。そのため、入学直後から職業意識向上と諸準備が求められる。文部科学省の「令和8年度大学、短期大学及び高等専門学校卒業・修了予定者に係る就職について（申合せ）」によると、就職・採用活動日程ルールとして、企業等の広報活動開始は、卒業・修了年度に入る直前の3月1日以降、採用選考活動開始は、卒業・修了年度の6月1日以降、正式な内定日は、卒業・修了年度の10月1日以降を原則とする、と周知されている¹⁾。

上述のことから、高松短期大学ビジネスデザイン学科（以下、本学科）においても初年次教育と並行して、就職試験対策や企業研究など就職活動に向けたキャリア教育授業を取り入れている。その主要科目名は、基礎演習Ⅰと基礎演習Ⅱ（Basic practicesⅠ・Ⅱ）であり、1年生の必修科目の位置づけにある。本科目で学習したことを活用し、就職試験を経て内定を得るが、就職先の決定が最終ゴールということではなく、その先を見据えた教育プロセスが重要なのである。そのため、本学科卒業後にも役に立つ、社会人としての知識や教養を、在学中に身につけてほしいとの教育目的の下、授業内容を見直した科目がある。それが、2年生の必修科目であり中核科目となる「応用演習Ⅰ」と「応用演習Ⅱ」（Applied practicesⅠ・Ⅱ）である。

そこで本稿は、2024年度から筆者が企画・運営を担当することとなった「応用演習Ⅰ」「応用演習Ⅱ」に基づくキャリア教育の取り組みについて詳述する。

1. 本学科の概要と科目の位置づけ

2024年度以降の取り組みについて述べる前に、本学科のコース制と主要科目となる応用演習Ⅰ・Ⅱの科目の位置づけについて説明する。

本学科は、四つのコースを設けている。すなわち、総合ビジネスコース、医療事務コース、グローバルビジネスコース、ヒューマンITコースである。入学生の希望を優先したコース選択ができ、入学式の日所属するコースを確定する。そのため、1年生の前期からコースごとの特色ある科目を履修することとなる。そのなかで、学科に所属している学生全員が履修する必修科目となっているのが、1年生開講科目の「基礎演習Ⅰ」「基礎演習Ⅱ」および2年生科目の「応用演習Ⅰ」「応用演習Ⅱ」である。

この四科目について、基礎演習Ⅰ・Ⅱは先述のとおり、初年次教育と就職活動支援を基幹とした授業を展開する。続く2年生中核科目の応用演習Ⅰ・Ⅱは、社会に出る学生が社会生活を営むうえで必要な知識や技能、幅広い教養を身につけ、社会の問題を知り情報を活用して問題解決能力を培うことを目的とした科目である。上述のとおり、この四科目は、コースに関わらず本学科に所属する学生全員が履修する必修科目である。そのため、どのような内容で授業展開すべきか、社会生活を営むうえで必要な知識や技能、教養はなにかを慎重に検討する必要がある。また、いずれのコースの学生も興味を持って受講でき、彼らの将来に

とって役立つ内容であることが求められよう。

以上が、本学科の概要と科目の位置づけである。ここで一つ付言しておきたいのは、上述の四科目は、その目的と内容から「キャリア教育」という概念で捉えられるとする提起である。中央教育審議会答申「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」

(2011)において、「学校教育では、社会人・職業人として自立していくために必要な基盤となる能力や態度を育成することを通じて、一人一人の発達を促していくことが必要である。このような、一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育が『キャリア教育』である」²⁾と提示されている所以である。また、児美川(2023)は、「キャリア教育とは、子どもたちが『社会に出ていく準備』をする教育のことである」³⁾と述べ、「子どもたちを職業に就かせるための教育ではなく、彼ら彼女らが『大人になること』をトータルに手助けする営み」⁴⁾であると説いている。このように、キャリア教育は、卒業後に社会人・職業人として自立して生きていくために必要な知識や能力を身につけて社会に出る起点にあり、準備をする教育である。そして、その中に就職対策が含まれると理解できる。

次章では、2024年度からの応用演習Ⅰ・Ⅱの授業方針とその展開について述べ、キャリア教育の視点を踏まえながら、今後の授業内容について検討する。

2. 応用演習Ⅰの方針と展開

2年生前期に開講する応用演習Ⅰでは、職業人として必要となる基礎的な知識・技能・教養の習得を基本的方針として内容を検討した。本科目の目的は、次のとおりであり、初回授業において学生に教示している。

本科目は、職業人としての教養を身につけるための授業である。就職活動から就職後の生活を見据え、自身のキャリアデザインを思考する機会とする。就職先として想定される職場で活躍の講師のお話しやスーツの着こなし、労働三法、男女共同参画社会などについて取り上げる。さらに学生自身で考え行動する時間をつくり、自身の職業観を見つめる機会とする。

上述の基本方針と目的に基づき、2024年度から新しく取り入れたことは次のとおりである。まず、各コースが目指す職業・職種で活躍している現場の方々を講師として招き、実際の業務の話聞くこと、また、本学科の前身である秘書科の卒業生を講師として招き、就職活動や就職後の仕事について話を聞くことである。先述のとおり、本学科には四つのコースがあり、各コースに特色のある科目を用意している。そして、各コースが目指す職業が異なるため、学生には自身が目指す職業に就いている現場の方々の話と卒業生(先輩)の姿から得られた学びを、自身のキャリア形成に活かしてほしいという意図がある。また、自身とは異なるコースに所属する同級生が、どのような職業に就くのかを知り、他職種への理解を深めるねらいもある。

次に、各回の授業テーマと講師は表 1 のとおりである。

表 1 2024 年度 応用演習 I の授業テーマと講師一覧
(★は、役所の担当部署から招いた講師である。)

	実施日	曜日	校時	授業テーマ	講師
第 1 回	4 月 12 日	金	3	オリエンテーション ソーシャル・メディアのリスクと正しいつきあい方	学科教員
第 2 回	4 月 26 日	金	3	就職内定へのお礼状の書き方	学科教員
第 3 回	5 月 1 日	水	3	スーツの着こなし講座	衣料品販売企業
第 4 回	5 月 10 日	金	3	自分らしく輝く！女性の起業	卒業生（起業）
第 5 回	5 月 17 日	金	3	キャリアデザインを考える	市役所 人事担当者
第 6 回	5 月 24 日	金	3	私が考える仕事と生き方	卒業生（自動車会社）
第 7 回	5 月 31 日	金	3	医療事務の仕事	医療系企業
第 8 回	6 月 7 日	金	3	卒業後のキャリアデザイン	卒業生（医療事務）
第 9 回	6 月 14 日	金	3	ステキな相棒・お花との出会い	卒業生（フラワーデザイナー）
第 10 回	6 月 21 日	金	3	仕事と感情	学科教員
第 11 回	6 月 28 日	金	3	私の原点 時代・地域と共に成長	IT 関連企業
第 12 回	7 月 5 日	金	3	男女共同参画社会をめざして	★
第 13 回	7 月 12 日	金	3	労働三法について	労働局
第 14 回	7 月 19 日	金	3	これからの自分らしいキャリアのために	教育委員会
第 15 回	7 月 26 日	金	3	はたらく女性の活躍	卒業生（図書館司書）

表 1 で示した授業テーマについて、そのテーマを取り入れた意図は次のとおりである。なお、表 1 の授業テーマは各回の講師の方々がつけたタイトルを示している。講師の方々には本科目の基本方針と目的を説明し、話の内容に沿ったタイトルをつけていただいた。

第 1 回「ソーシャル・メディアのリスクと正しいつきあい方」は以前から取り入れていたテーマであるが、ソーシャル・メディアの適切な利用を啓発し、プライバシーや個人情報保護の意識を高めるねらいがある。第 2 回「就職内定へのお礼状の書き方」は、内定をいただいた就職先へのお礼状の書き方を学習した。第 3 回「スーツの着こなし講座」は、就職後の服装として、スーツの選び方や手入れの仕方、オフィスカジュアルやビジネスカジュアルといった着こなし方を学ぶことで、職場や状況に応じた職業人としての服装選びについて学習した。第 4 回「自分らしく輝く！女性の起業」では、飲食店を起業して代表取締役として活躍している卒業生を招き、起業に至った経緯やキャリアデザインを聞くことで起業という選択肢を教示した。第 5 回「キャリアデザインを考える」では、市役所の人事担当者を招いて、公務員（市役所）の仕事への理解を促した。第 6 回「私が考える仕事と生き方」は、

卒業後1～2年の卒業生から仕事への取り組み方や自身の考える今後のライフデザインなどについて聴講し、学生にとって数年後の自身の姿をイメージする機会とした。第7回「医療事務の仕事」では、医療事務としてのキャリアと医療事務を育成する立場を経験してきた管理職を講師に迎え、管理職の視点から社員（職員）に求めることや仕事上の心構えを教えていただいた。第8回「卒業後のキャリアデザイン」は、医療事務として勤務している卒業生から、現在の仕事内容や自身の就職活動の話聞き、医療事務の業務内容や病院について学習した。第9回「ステキな相棒・お花との出会い」では、フラワーデザイナーとして活躍する卒業生を招き、出会いやきっかけによって生じるキャリアの転機・変遷について学んだ。第10回「仕事と感情」は、職場での感情のコントロールや苦境を跳ね返すユーモアについて考えることで、感情労働への理解とコーピングを学習した。第11回「私の原点 時代・地域と共に成長」では、IT 関連企業の管理職を招き、自身のキャリアデザインとそれに並行したライフイベントについてお話しいただいた。サブタイトルは「女性の働き方のサンプルとして」であり、ライフイベントとキャリア形成をどのようにデザインしていくのか問いかけた。第12回「男女共同参画社会をめざして」は、日本の職場が“はたらく”ということに対してどのような取り組みをしているのか、男女共同参画社会という視点からその背景と現状、現在の社会の意識について理解を促した。第13回「労働三法について」は、働くことを法律の観点から理解し、労働者の権利と義務について学習した。第14回「これからの自分らしいキャリアのために」は、学生を育てるという教育者の観点から、大学で学ぶべきことや学習する姿勢について外部講師の方からお話しいただいた。第15回「はたらく女性の活躍」は、多様な経験を積み、図書館司書として活躍していた卒業生から、自身のキャリアデザインとこれから社会人になる学生への期待をお話しいただき、モチベーションの機会とした。

次に、次章では、2年生後期科目である応用演習Ⅱについて詳述する。

3. 応用演習Ⅱの方針と展開

応用演習Ⅰが、「職業人として求められるもの」であったのに対して、応用演習Ⅱでは、社会生活を営む「社会人としての知識や技能、教養を身につけること」を基本的方針として内容を検討した。本科目の目的は、次のとおりであり、初回授業において学生に教示している。

本科目は、卒業後に社会生活を送るために必要な社会人としての教養を身につける授業である。社会問題への気づきや理解、より良い暮らしのためのライフデザインを授業の学びから思考するものである。具体的には、食生活や生活習慣病予防などの健康に関すること、応急手当や消費者被害などの社会生活に関すること、ユニバーサルデザインやフラワーアレンジメントなどの教養に関することについて学習する。そして、学生自身で考え行動する時間を設け、自身のこれからの思索する機会とする。

応用演習Ⅱは後期科目であるため、進路（就職先等）が決まり、卒業後の生活が想像しやすくなる段階にある。卒業後に一人暮らしをはじめるとする学生は、炊事・洗濯など単身での生活力が必要となるし、朝起きる習慣のない学生は、規則正しい生活リズムに変えていく必要がある。このように、卒業後、社会で生きていく準備をするために必要な知識や能力は何かを考え、15回の授業内容を検討した。2024年度の各回の授業テーマと講師は、表2のとおりである。

表2 2024年度 応用演習Ⅱの授業テーマと講師一覧
(★は、役所の担当部署から招いた講師である。)

	実施日	曜日	校時	授業テーマ	講師
第1回	9月27日	金	3	オリエンテーション レポートの書き方	学科教員
第2回	10月4日	金	3	防災・減災対策について	★
第3回	10月11日	金	3	最近の救急・救助の現況と応急手当について	★
第4回	10月18日	金	3	卸売市場について	★
第5回	10月25日	金	3	食育（食生活）について	★
第6回	10月31日	木	3	生活習慣病予防について	★
第7回	11月6日	水	4	タウンミーティング	市長
第8回	11月8日	金	3	ユニバーサルデザイン	★
第9回	11月15日	金	3	フラワーアレンジメント	フラワーデザイナー
第10回			4		
第11回	11月22日	金	3	賢い消費者になるために	★
第12回	11月29日	金	3	合理的配慮	社会福祉協議会
第13回	12月13日	金	3	日本でできる国際協力（ボランティア）	公益社団法人
第14回	1月10日	金	3	こころの健康について	★
第15回	1月24日	金	3	総括（まとめ）	学科教員

表2のとおり、社会人として必要と思われるテーマを集め、授業を構成した。各回の意図は次のとおりである。

第1回「レポートの書き方」は、初年次教育の一環として1年生での学びを再確認し、就職後の文章作成を意識して、再度取り上げて学習している。第2回「防災・減災対策について」は、いつ起こるか分からない災害について意識を高め、いまからできる対策と備えを学習した。第3回「最近の救急・救助の現況と応急手当について」は、人命救助の観点から、応急手当の方法や救急車の適正利用、脳卒中や心筋梗塞などの初期症状について学習した。第4回「卸売市場について」は、生産者から小売店に及ぶまでの物流を知り、特産品に興味を持つとともに、その調理方法や鮮度の見分け方を知ることによって、食への興味を促した。第5

回「食育（食生活）について」と第6回「生活習慣病予防について」は、卒業後の慣れない環境でも体調を崩さず元気に活躍するために、食事や運動などの生活習慣を見直す契機となるよう、計画した。第7回「タウンミーティング」は、市長と学生が市政について話し合うことで、市への理解と市民としての役割を学習した。第8回「ユニバーサルデザイン」は、性別、言語、障害の有無、年齢などに関わらず、すべての人を対象とした、使いやすい、わかりやすいデザインを学び、福祉の視点を育んだ。第9・10回「フラワーアレンジメント」は、実際に生花に触れて作品を作ることで、花への親しみや花を生けるといふ心の教養を身につけた。第11回「賢い消費者になるために」は、消費者トラブルの実例を知り、トラブルに巻き込まれないための知識を学んだ。第12回「合理的配慮」は、就職後に仕事上で応対する顧客や患者のみならず、社会生活で出会う人々への理解と障害のある人ない人も共に生きる社会について学びを深めた。第13回「日本でできる国際協力(ボランティア)」は、社会貢献や国際協力についてその種類や支援の方法を学んだ。第14回「こころの健康について」は、ストレスの対処方法などメンタルヘルスについて学び、心身ともに健康に生活する方法を学習した。第15回「総括(まとめ)」では、前期の応用演習Ⅰから応用演習Ⅱまで合わせて30回の各回を振り返り、各自でより深く知りたいテーマを決め、レポートを作成した。

4. 今後の課題

先述のとおり、前期は「職業人」、後期は「社会人」として求められる知識や能力養成の観点から授業構成を考えるという意図をもって、2024年度に開始した取り組みであるが、その過程で3点の課題がみえてきた。

第一に、キャリア教育の評価についてである。応用演習Ⅰ・Ⅱは、レポート、発表、受講態度の3項目を総合して成績評価をおこなっている。レポートは、原則毎回講演終了時に配布し、文字数、常体、内容、誤字脱字の四つの評価区分に従い点数化する。発表は、講演終了後に質疑応答の時間を設け、質問および感想を述べた学生に点数を与えている。受講態度は、服装、遅刻、私語、居眠り、携帯電話等の観点に基づき評価している。古川(2020)は、「キャリア教育で評価する内容として、知識、理解、スキル等の見えやすい、測定しやすい側面に加えて、能力、意欲、態度等の見えにくい、測定しにくい側面がある」⁵⁾と述べている。受講した学生の反応、すなわち知識や理解などは、毎回のレポートで確認することができる。しかし、身についた能力を、すぐに確認することは難しい。例えば、けがをした目の前の人に応急手当ができる、生活習慣病にならない生活が送れているなどは、その場面に学生が遭遇しなければ、学んだ知識や取得情報などを活用能力として応用化できるかどうか確認することは難しい。

第二に、学生の満足度についてである。2024年度の学生による授業評価アンケートの結果を見ると、応用演習Ⅰは1名が「どちらともいえない」を選択しているが、応用演習Ⅱで

は「かなり満足している」「非常に満足している」との回答が 100%であった¹。しかし、テーマとして取り上げた内容の中には、学生にとって少し先の未来に役立つであろうことも多い。現場の方々が話してくださった自身のキャリアデザインや起業・経営者としての視点などは、学生自身がキャリアを積んだ時に役立つであろうし、災害や応急手当、生活習慣病などは、実際に自身の身に降りかかるまで他人事かもしれない。学生の将来のどの時点で必要となるのかわからないが、必要時において、大学で学んだ内容を思い出してもらえるのか、それが知識・能力として役立つのか懸念されるところである。上述の「評価」の困難さ同様、この点を知り得ることもまた難しい。

そして第三に、扱うテーマの内容に偏りがあるのではないかという点である。特に後期の応用演習Ⅱは、社会人として求められるものであるため、その範囲は広範である。しかしながら、講義回数は 15 回であるため、限られた回数の中に集約する必要がある。また、四つのコースの学生が平等に興味を持って受講できるように意識して調整を図ったが、健康や医療福祉に偏った内容になっているようにもみえる。参考までに、2025 年度の応用演習Ⅱ²のテーマ一覧を表 3 に示すと、次のとおりである。

表 3 2025 年度 応用演習Ⅱの授業テーマ一覧

	授業テーマ
第 1 回	オリエンテーション、レポートの書き方
第 2 回	防災・減災対策について
第 3 回	最近の救急・救助の現況と応急手当について
第 4 回	賢い消費者になるために
第 5 回	食生活と生活習慣病予防
第 6 回	ユニバーサルデザイン
第 7 回	フラワーアレンジメント
第 8 回	
第 9 回	感染症の予防
第 10 回	家庭での食中毒予防について
第 11 回	みんなで守ろう地域医療
第 12 回	合理的配慮について
第 13 回	“今どき”の歯と口の健康 ～将来に差がつく、スマイルのチカラ～
第 14 回	こころの健康について
第 15 回	総括（まとめ）

¹ 担当している研究室の学生の回答のみ閲覧できるため、この回答は、筆者の研究室の学生のうち、授業評価アンケートに回答した学生の結果である。

² 執筆時点では、学期途中であるため予定の内容を含んでいる。

おわりに

本稿では、本学科の2年生の必修科目である応用演習Ⅰ・Ⅱの2024年度からの取り組みについて述べ、今後検討すべき課題を3点にまとめた。その課題とは、評価の観点から能力が測定しにくいこと、少し先の未来に活用されるであろう知識や能力についての学生の満足度が見えにくいこと、企画・運営の担当者によって扱うテーマに偏りがでることであった。この3点については、考察課題であり、今後の中核科目に反映させていきたいと考えている。

本学科は四つのコースを設けており、各コースに目指す職業がある。学生は、二年間という短期間で、各コースが設定するカリキュラムを履修し、キャリア形成の第一歩となる就職先を探索し、内定を得ることになるが、このことは学生にとって、目標（就職先）に向かうための直線的な思考にならざるを得ない。その中において、他の学生が就職する職業・職種、職場の先輩のキャリアデザイン、社会生活を営む上で必要な知識など、職業人・社会人としての知識や教養を2年生の必修科目の中で学習することは、卒業後も続く彼らの人生にとって意味のあることであろう。したがって、卒業後の就職だけではなく、その先の未来を想定した知識を教授することも短期大学の役割ではないだろうか。そこに本学科におけるキャリア教育の意義がある。

引用文献

- 1) 文部科学省ホームページ「令和8年度大学、短期大学及び高等専門学校卒業・修了予定者に係る就職について（申合せ）」通知文（大学等向け） p.2、
https://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/gakuseishien/1422040_00009.htm
- 2) 文部科学省ホームページ、中央教育審議会答申「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」、第1章 キャリア教育・職業教育の課題と基本的方向性、
https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/004/siryo/attach/1303768.htm
- 3) 児美川孝一郎（2023）『キャリア教育がわかる—実践をデザインするための〈基礎・基本〉』誠信書房、p.3
- 4) 児美川孝一郎（2023）『キャリア教育がわかる—実践をデザインするための〈基礎・基本〉』誠信書房、p.3
- 5) 日本キャリア教育学会編（2020）『新版 キャリア教育概説』東洋館出版社、p.159

参考文献

- 高松短期大学発行（2025）『履修ガイド』
文部科学省（2025）「令和8年度大学、短期大学及び高等専門学校卒業・修了予定者に係る就職について（申合せ）」通知文（大学等向け）
児美川孝一郎（2023）『キャリア教育がわかる—実践をデザインするための〈基礎・基本〉』

誠信書房

日本キャリア教育学会編（2020）『新版 キャリア教育概説』東洋館出版社

文部科学省（2011）中央教育審議会答申「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」